



令和7年度全国学力・学習状況調査について

〈教科に関する調査について〉

結果の概要について

教科別の平均正答率は、小・中学校ともに、全国平均と同程度か、若干下回る結果となりました。

昨年度、全国平均を2ポイント下回っていた中学校国語は、知識及び技能を問う問題で改善が見られ、今年度は全国平均と同程度の結果となりました。

一方で、読解力については引き続き課題が見られるほか、小学校国語、中学校数学では、全国平均との差が「-2」となっています。

各教科で課題があると捉えた問題は次のとおりです。

〈小学校・国語〉

書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができるかどうかをみる問題。

〈中学校・数学〉

式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題。

〈中学校・理科〉

【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかをみる問題。

また、全体的な課題として挙げられるのは、次のとおりです。

- 目的や意図に応じて必要な情報を正しく読み取る力。
- 見いだした事実や自分の考えを適切に説明する力。

授業改善に向けた今後の取組について

令和7年10月～令和8年1月に、授業力パワーアップ研究会を開催します。「**学習内容や場面に応じた ICT の効果的な活用**」、「**自身の学びを次につなげていくことができる『振り返り』の充実**」の2点に焦点を当てて実施します。愛媛で学ぶ全ての子供たちが、これからの時代に求められる資質・能力を身に付けられるよう、県内各地域において**更なる授業改善の活性化**を目指していきたいと思います。

〈質問調査について〉

成果の見られた項目について

「将来の夢や目標を持っている」と答えた児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国平均に比べて高い状態を維持しています。先生方が日々の学校生活において、児童生徒の主体性や自己肯定感を育てていることに加え、公立中学校における5日間の職場体験学習や、小学6年生を対象とした「プレジョブチャレ 夢わく work(わくわく)フェスタ」など、キャリア教育の充実に力を入れてきた成果と捉えています。

また、「授業で ICT を週3回以上使用した」と答えた児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国平均に比べて高くなっており、授業における ICT の活用が浸透していると認識しています。今後も、アナログとデジタルそれぞれのよさを適切に生かし、より質の高い授業を目指していきたいと思います。

課題の見られた項目について

「国語、算数（数学）、理科について授業の内容はよく分かる」、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と答えた児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国平均を下回っています。

また、全国・愛媛県ともに、ゲームやスマートフォンの使用時間が長くなり、家庭学習の時間が短くなってきています。愛媛県の結果は下記のとおりです。ゲームやスマートフォンの使用時間については、令和3年度に急激な伸びを示しています。コロナ禍に長時間ゲームやスマートフォン等を使用する習慣が身に付き、家庭学習の時間の減少に結びついているものと推測されます。

〈1日1時間以上、家庭で勉強している〉			
	平成29年度	令和3年度	令和7年度
小学校6年生	73.7%	72.8%	59.6%
中学校3年生	70.9%	77.6%	56.3%

〈ゲームやスマートフォンを1日1時間以上使用している〉			
	平成29年度	令和3年度	令和6年度
小学校6年生	52.5%	73.6%	73.7%
中学校3年生	57.9%	77.0%	68.4%



今後の取組について

目指すのは、「分かる」「できる」と実感できるような授業づくりです。児童生徒が、自分から疑問を持ったり問題を見いだしたりするような学習活動や、どのように考えたかを説明したり、授業で学習したことを普段の生活の中で活用したりできるような授業を行うことが効果があると考えられます。

また、家庭学習の在り方について、「なぜこの宿題をするのか」児童生徒に目的をしっかりと伝えたり、児童生徒がレベルや内容を選択できるなど「やってみたい」と思えるような宿題を提示したりすることで、学校での学びを家庭へつなげ、基礎学力の定着を図ってほしいと思います。さらに、スマートフォン等の家庭における使用方法等についてのルール作りに関する啓発など、各学校の実態に応じて取り組んでいただきたいと思います。

全ての子供の「愛顔（えがお）あふれる愛媛県」を目指し、課題をしっかりと確認し、改善に向けた取組内容を教職員が一緒になって考え、最善を尽くしていきましょう。